



5月23日(木) 17:00~18:00
理学部V号館 2階 5207教室

モンゴルにおける干ばつ時の放牧戦略と 土地荒廃の関係

講演者: 柿沼 薫 *Kaoru Kakinuma*

所属: 東京大学大学院
農学生命科学研究科

乾燥地に住む人々は、その気候の変動性の高さに対応した牧畜システムを発達させてきた。とくに干ばつ時の牧民は、資源の空間的なばらつきを、移動しながら利用することで家畜を維持している。このような牧民の放牧戦略は、放牧圧の空間的分布と密接に関わっており、そのメカニズムを明らかにすることで放牧圧がもたらす土地荒廃の解明につながる。そこで本研究では、牧民の資源選択に関わる意思決定、およびその意思決定が植生へ及ぼしている影響を明らかにし、気候変動性が高い環境下における放牧地管理について議論する。調査対象地はモンゴルのマンダルゴビとした。

現地牧民への聞き取り調査および植生調査の結果、

- ①干ばつ時に重点的に利用される群落が局所的な小スケールで分布し
- ②そのような群落では他の群落に比べ放牧圧が高く、植生の変化が大きかったことから、土地荒廃が起こる可能性が高いことが示された。本研究は、干ばつが頻発する地域においても、干ばつ時に利用される資源では、家畜数の制限といった放牧圧のコントロールが必要であるという放牧地管理上重要な知見を提供した。

尚、セミナー終了後に懇親会もございますのでご参加ください！！

